

計画の名称	佐井寺西地区における幹線道路の整備に伴う利便性の向上と良好な住環境の形成											
計画の期間	令和03年度 ~ 令和07年度 (5年間)										重点配分対象の該当	
交付対象	吹田市											
計画の目標	<p>本地区は吹田市のほぼ中央に位置し、地区西部には南北を縦断する阪急千里線が通っており、阪急千里山駅や阪急南千里駅から徒歩10～15分の距離に位置する地区で通勤通学等の電車利用者にとっては、便利な地域であるが、地区中央部に大規模グラウンド用地が存在していることや、都市計画道路等の交通網が未整備であることから、市街化が遅れている地区である。</p> <p>本事業は土地区画整理事業手法を活用し、これまで未整備であった都市計画道路豊中岸部線（幅員22m）及び佐井寺片山高浜線（幅員18m）の整備と併せて、周辺のまちづくりを一体的に行い、市域の交通環境の改善と佐井寺西地区の良好な住環境の形成を目指すものである。</p>											
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	9,031	A	9,031	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	0 %

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		R3		R12
1	地区内の居住人口を増加 土地区画整理事業区域を含む町丁目の人口	17761人	人	19191人
2	市域北部千里ニュータウンから南部旧市街地への所要時間の短縮 千里ニュータウンの南玄関口である阪急南千里駅から旧市街地の中心拠点であるJR吹田駅への所要時間の短縮 車両移動における合理的な最短経路延長 / 規制速度	9分	分	6分
3	市域北部千里ニュータウンと南部旧市街地との交通安全性の確保 千里ニュータウンの南玄関口である阪急南千里駅から旧市街地の中心拠点であるJR吹田駅との最短経路における歩車分離率 最短経路のうち歩車分離された道路延長 / 最短経路延長	87%	%	100%
4	市中央部から国道423号への所要時間の短縮 佐井寺地区の土地区画整理事業により市街化を推進してきた市中央部から大阪府北部の幹線道路である国道423号への所要時間の短縮 車両移動における合理的な最短経路延長 / 規制速度	5分	分	3分
5	市中央部から国道423号との交通安全性の確保 佐井寺地区の土地区画整理事業により市街化を推進してきた市中央部から大阪府北部の幹線道路である国道423号との最短経路における歩車分離率 最短経路のうち歩車分離された道路延長 / 最短経路延長	75%	%	100%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-	避難確保計画の策定	避難行動要支援者名簿の提供
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---	-----------	---------------

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況			
												R03	R04	R05	R06	R07						
一体的に実施することにより期待される効果																						
備考																						
道路事業	A01-001	街路	一般	吹田市	直接	吹田市	市町村道	新設	佐井寺西土地区画整理事業	豊中岸部線 L=911m	吹田市						4,358	8.22	-			
												小計						4,358				
市街地整備事業	A13-002	市街地	一般	吹田市	直接	吹田市	-	-	佐井寺西土地区画整理事業	都市再生区画整理 A=20.3ha	吹田市						4,673	1.03	-			
												小計						4,673				
											合計						9,031					

交付金の執行状況

(単位：百万円)

	R03	R04			
配分額 (a)	557	537			
計画別流用増 減額 (b)	0	0			
交付額 (c=a+b)	557	537			
前年度からの繰越額 (d)	0	115			
支払済額 (e)	442	281			
翌年度繰越額 (f)	115	371			
うち未契約繰越額(g)	0	0			
不用額 (h = c+d-e-f)	0	0			
未契約繰越率+不用率 (i = (g+h)/(c+d))%	0	0			
未契約繰越率+不用率が10%を超えている場合その理由					